

# 子どもの人権

問 教育委員会事務局人権・同和教育係 ☎ 0943-32-0093

尊重され、幸せに生きる権利―人権―は、すべての人に平等に与えられているものです。大人だけでなく、当然子どもも保障されています。

しかしテレビやインターネットでは、連日貧困や飢え、戦争などで苦しむ世界の子どもの姿が報道されています。日本でも、虐待やいじめのニュースが絶えることはありません。

社会的弱者である子どもは、大人よりも人権が侵害されやすい存在です。多感な時期にある子どもの人権が侵害されると、健全な成長に悪影響を及ぼすこともあります。

## 虐待

全国の児童相談所における児童虐待相談件数は、平成29年度で13万3778件と過去最多（厚生労働省報告書）。27年連続で増加しています。

虐待を受けた子どもは自分を肯定できなくなり、深い悲しみと怒りが残ります。中には死に至るようなケースもある、深刻な社会問題です。保護者が子どもに手を上げ

てしまう背景には、

- 子育ての苦悩を抱えたまま解決策が見つからない
- 家事や仕事に追われ、子どもをみる余裕がなくなる
- 地域社会とのつながりが失われ、孤独や焦りを感じる
- 子どもを自分の所有物、大人の言うことを聞くのが当然だと考える

などがあります。

子育てに悩んでいる人は、一人で抱え込まず、身近な人に相談してみましよう。家族や子どもが通っている園、学校など、誰かに話すことで、悩みを解消できることがあります。

周囲に相談できる人がいないときは、最寄りの児童相談所や、子育て支援係（☎ 0943・32・1113）にご相談ください。

また、生活の中で「虐待かも」と感じることがあれば、一刻も早く警察や児童相談所へご連絡ください。



## いじめ

殴ったり蹴ったり、体に苦痛を与えることだけが「いじめ」ではありません。仲間はずれや無視、悪口、持ち物を取り上げるなど、相手がいやがることをして、心に苦痛を与えることも「いじめ」です。

これらのいじめには、いじめの「加害者」と「被害者」以外に、はやしたてたり面白がったりする「観衆」、見て見ぬふりをする「傍観者」が存在します。「いじめのターゲットになるかも」と観衆や傍観者でいることは、結果的にいじめを悪化させることに繋がりがありません。

いじめを受けている子どもは、無口になったり、登校を拒否したりと、何らかのサインが現れます。いじめをする子どもにも、言動が荒くなるなどのサインが現れます。

子どもがサインを出しているときは、学校での出来事を尋ねてみましょう。いじめが分かったら、まずは学校へご相談ください。いじめをなくすには、家庭・学校・地域が連携する必要があります。

## 貧困

「今の日本に貧困の子どもなんているの？」という声もありますが、実際には、全国の子どもの約6人に1人が貧困状態にあるとされています。ここでいう「貧困状態にある子ども」とは、一定基準を下回る手取り所得の家庭で育つ、17歳以下の子どものことです。満足な食事ができず、病気やけがをしても病院へ行くことができません。やりたいことをできず、「何かをしたい」という意欲も持てなくなります。

子どもの貧困問題は、当事者だけの問題ではありません。貧困を放置することで生まれる社会的損失は、40兆円以上になるともいわれています。

子どもの人権を侵害するこれらの問題は、一朝一夕に解決することはできません。しかし私たち一人ひとりが互いを思いやり、苦しんでいる子どもたちの言葉に耳を傾けることで、「子どもの人権」が守られる社会につながるのではないのでしょうか。

# 新しく町指定文化財になった 『高良玉垂宮縁起』【その2】

『高良玉垂宮縁起』には共通して、神功皇后の率いる軍船が、朝鮮半島へ渡海する場面が記述されています。干珠と満珠の玉を持って船の船先で指揮をとるのは、高良大明神です。

『日本書紀』によると、この出来事は西暦200年（仲哀天皇9年）、弥生時代の終わりごろにあたります。『日本書紀』には西暦369年（仁徳天皇57年）にも、倭（日本）と百済連合軍が新羅を攻め破ったと記されています。

これらの記述をそのまま事実と認めるのは難しいところですが、『古事記』と『日本書紀』の記述は、当時の時代背景を表しているといえます。古代の朝鮮半島にあった百済・新羅・高句麗の3国のうち、高句麗の都があった集安（現在の中国吉林省集安市）には、有名な高句麗好太王碑（高句麗広開土王碑とも）があります。その側には好太王（広開土王）を葬った古墳も残っています。

『広川町史』編さん委員会は平成17年、調査・取材のため現地を訪れました。現在は世界遺産となっている好太王

碑は、四方をガラスで覆われ、手で触れることはできません。しかしガラス越しに、刻まれた重要な事実を読み取ることができました。

●西暦391年（仁徳天皇79年）、倭が渡海して百済・新羅に攻め入ってこれを破った。

●西暦399年（仁徳天皇87年）、倭・百済の連合軍が新羅に攻め入ったため、新羅は高句麗に救援を求めた。

●西暦400年（履中天皇元年）、高句麗の好太王は5万人の援軍を新羅に送り、倭軍を退けた。

●西暦404年（履中天皇5年）、倭軍が带方軍軍に出兵したが、高句麗軍によって撃退された。

この時期の日本は、すでに古墳時代に入っています。必ずしも年代的に一致するわけではありませんが、『玉垂宮縁起』と高句麗好太王碑には、似たような

歴史が記述されていることが分かります。

福岡県で良く知られている『高良玉垂宮縁起』は、筑後地域の神社に掲げられる絵馬の画題としても多く描かれています。今日では神功皇后伝記絵や高良縁起絵、八幡宮縁起絵などとも呼ばれています。



(左) 好太王碑、幅1.5～2.0m×高さ6.34mの巨石の4面に1775文字が刻まれる  
(右) 高句麗好太王の古墳（集安市郊外）

## 広川町古墳資料館だより

現在復元している石人山古墳の家形石棺は、棺蓋（写真上）を4個の凝灰岩石材、棺身（写真下）を12個の凝灰岩石材の組み合わせで作っています。

石棺は石人山古墳の墳丘内にあるため、普段はその大きさを実感することはありません。今回の石棺の復元では、その巨大さを実感すると

ともに、全長120mの前方後円墳の主体部に安置される重要さが再認識できました。

石棺が作られた当時は、必要な石材原石を採掘・運搬し、大まかな形を整え、古墳に搬入し、現地で彫刻を施したことでしょう。驚くべきは、現在は機械工具で石材を成形しますが、当時はすべて工人による手仕事だったことです。

